



H A S H I K A M I

2011年(平成23年)

No.5

6月号(June)

はしかみ 議会だより



02 平成23年度
一般会計当初予算

03 14人の議員は
こんな人

04 4議員が一般質問

08 東日本大震災



がんばろう階上
がんばろう東北

教育民生常任委員による学校視察の授業風景
(小舟渡小学校:平成22年11月16日)

3月定例会 3月11日～18日

平成23年第2回定例会を3月11日開会し、3月18日閉会しました。

今回の議会では、条例一部改正6件、補正予算5件、新年度予算6件、その他3件など、計20件が上程されました。審議の結果、いずれも原案のとおり可決、承認されました。

主な可決議案

条例一部改正

乳幼児等医療費の給付について、給付対象年齢とする範囲を小・中学生まで拡大するものです。

補正予算

平成22年度の一般会計及び特別会計5件の補正予算です。

一般会計は、既定の歳入歳出総額にそれぞれ340万2千円を追加し、歳入歳出予算の総額を55億1152万2千円とするものです。

新年度予算

一般会計予算

56億3千万円と定め

ました。

▽国民健康保険特別会計予算

18億144万9千円と定め

ました。

▽漁業集落排水事業特別会計予算

4534万4千円と定め

ました。

▽介護保険特別会計予算

9億4722万7千円と定め

ました。

▽公共下水道事業特別会計予算

2億4217万9千円と定め

ました。

▽後期高齢者医療特別会計予算

9025万6千円と定め

ました。

詳しい新年度予算については、広報はしかみ4月号(2～3ページ)をご覧ください。

その他

・第4次階上町国土利用計画基本構想を定めることについて
・公の施設の使用に関する協定の締結について
・町道路線の認定について

平成23年第3回臨時会

新議会組織決定

議会臨時会において、議長・副議長及び各委員会委員が決定されました。

議長 木村 勝彦
副議長 加藤 祐

議会運営委員会

(◎委員長○副委員長)

議会の運営を円滑で効率よく進めるための議長の諮問機関。本会議が招集されると開会前に開催され、会期・議事日程・議案・一般質問などの取り扱いを協議。議長から特に諮問された事項の調査・審査を行い回答する役割も担っている。

◎山田恵治 ○大江和夫

総務財政常任委員会

(総務 企画財政、税務、出納に関する事項及び他の委員会に属さない事項を担当)

◎郷州公典 ○林 貢

教育民生常任委員会

(教育委員会・学校教育・社会教育、戸籍住民、福祉、健康増進に関する事項及び他の委員会に属さない事項を担当)

◎石川清人 ○山田恵治

産業建設常任委員会

(産業振興、土木建設、下水道に関する事項及び他の委員会に属さない事項を担当)

◎重文字勝義 ○百目木和俊

八戸地域広域市町村圏事務組合議会

畑中 弘實

八戸市階上町代小中学校組合議会

畑中 弘實

監査委員

畑中 弘實 山田恵治

林 貢 百目木和俊

鹿原章男

主な可決議案

5月12日に招集され、報告1件、専決処分4件、専決処分による平成22年度一般会計及び特別会計補正予算7件、平成23年度補正予算2件等合計14件が上程されました。

審議の結果、いずれも原案のとおり可決・承認されました。

平成22年度

▽一般会計補正予算

既定額55億1152万2千円に8635万2千円を追加し、

55億9787万4千円とした。

▽国民健康保険特別会計補正予算

既定額18億1998万6千円

から6018万7千円を減額し、

17億5979万9千円とした。

▽老人保健特別会計補正予算

既定額119万4千円から19

万を減額し、100万4千円と

した。

▽漁業集落排水事業特別会計補正予算

既定額3553万8千円に2

47万9千円を追加し、380

1万7千円とした。

▽介護保険特別会計補正予算

既定額8億9913万4千円

に1489万4千円を追加し、

9億1402万8千円とした。

▽公共下水道事業特別会計補正予算

既定額1億8384万8千円

から91万5千円を減額し、1億

8293万3千円とした。

▽後期高齢者医療特別会計補正予算

既定額8465万8千円に68

万9千円を追加し、8534万

7千円とした。

平成23年度

▽一般会計補正予算

既定額56億3000万円に3

億809万円を追加し、59億3

809万円とした。

▽漁業集落排水事業特別会計補正予算

既定額4534万4千円に2

億9083万8千円を追加し、

3億3618万2千円とした。

議員紹介

副議長



6番 加藤 祐 (61)
①総務財政 ②3期目

みなさまの意見を
町政に反映させるため
がんばります

新議長挨拶
平成23年第3回臨時会において議長という大役を仰せつかりましたけれども、非常に重責を感じております。
ご承知のように非常に厳しい社会情勢の中で、議員の皆さんと一緒にこれからの議会運営を行って行かなければならないと思っております。
大変、微力ではございますが町のため、そして、町民のために精一杯頑張りますので、よろしくお願いたします。

議席番号 氏名 (年齢)
①所属委員会 ②議員歴

議長



14番 木村 勝彦 (68)
①総務財政 ②6期目



1番 浜谷 貴樹 (40)
①総務財政 ②1期目



2番 松尾 國治 (63)
①教育民生 ②1期目



3番 百目木和俊 (60)
①産業建設 ②2期目



4番 大江 和夫 (61)
①産業建設 ②2期目



5番 林 貢 (63)
①総務財政 ②2期目



7番 重文字勝義 (70)
①産業建設 ②3期目



8番 鹿原 章男 (75)
①産業建設 ②3期目



9番 石川 清人 (57)
①教育民生 ②4期目



10番 山田 恵治 (57)
①教育民生 ②4期目



11番 郷州 公典 (65)
①総務財政 ②4期目



12番 松森 蒿 (66)
①教育民生 ②5期目



13番 畑中 弘實 (67)
①教育民生 ②5期目



3月定例会では4人の議員が登壇し、町側の考えをただしました。要旨を掲載しています。



浜谷 政己 議員

階上町の救急医療体制について

町長／町民が安心して暮らせる医療体制を目指していきたい

Q 東部地区には、医療機関は歯科診療所と接骨院の2か所だけです。内科診療所が必要と思っております。

しかしながら、医師不足という状況にあつて、実現することが非常に難しい。だからこそ医療機関がない地域とすれば、救急医療体制の充実が是非とも必要です。

A そこで、町の救急医療体制はどうか、その活動・運航状況について伺います。

町長 急速な少子高齢化の到来や生活習慣病の増加等に伴う医療ニーズが増大している中で、保健医療体制を充実させることにより、安心して医療サービスを受けられるようにするために、県では平成元年に「青森県保健医療計画」を策定して、数度にわたる見直しを行ってきたところです。

救急医療体制については、この計画の中で、青森県を6つのブロックに分けた二次保健医療圏の中の八戸地域に位置づけられており、構成メンバーは、八戸地域広域市町村圏事務組合と同じ8市町村。

計画では、構成メンバーが連携をとって、役割分担をすることによって医師不足の解消と良質な医療サービスを提供するための体制確立を目的としたもので、初期救急医療や入院救急医療の役割を担うことにより、必要な医療を集中的に受けられるようにしようというものです。

救護体制については、八戸地域広域市町村圏事務組合の消防機関に配置する救急車のほか、総合的な医療体制の整備としてドクターカーとドクターヘリを運行（航）しております。

ドクターカーの階上町への

出動回数は、平成22年度は33回。ドクターヘリは13回となっております。ドクターヘリの2機目の導入については、あらゆる機会で、強く働きかけ、町民が安心して暮らせる医療体制を目指していきたいと考えています。

町の公園整備と種差海岸国立公園の編入について

町長／計画的な整備をしていきたい

Q 公園の整備について、町の現在ある公園は、どのような目的で整備されたのか、その利用度について。

今後、公園の整備計画はあるのか聞きたい。

種差海岸国立公園に階上海岸も編入されるのか聞きたい。

A 町長 公園は町民が身近に利用でき、安らぎ

と潤いを与えます。

町内の、6つある各地域の公園につきましては、町民が気軽に利用でき、自然空間の中で自由に楽しんでもらえるという目的で整備しています。

町内外を問わず大勢の方々からコミュニティやレクリエーション、憩いの場又、安らぎの場として利用されています。階上駅裏の公園整備については、ゲートボールや地域住民の健康づくり公園として要望されており、地域の皆さんのご意見やご協力をいただきながら検討していきたい。

種差海岸国立公園の編入は、環境省の作業の進捗状況を見ながら、地域住民の方々へ適切な対応をしていきたい。



ゲートボール大会



加藤 祐 議員

住宅耐震化の取組みについて

町長／今後の国・県の計画を見極めて検討する

宅を対象に、耐震診断の補助制度ができた。

また、改修の補助制度は青森県は設けないとありますが、町民に対する意識の高揚やアピールはどのようにしてきたか、今後の取組みはどのようにしていくのか。

A 町長 住宅の耐震化は、住宅の倒壊による生命の危険を考える時に極めて重要なことです。

住宅の耐震化は、青森県内の自治体は他県に比べて遅れているのが現状で、県内で実施しているのは6つの市・町だけです。

耐震改修費用については、実施例がありません。国では方針として、平成27年度末で耐震化率9割確保という方針を立てていますが、県及び市町村の責務として努力義務の規定になっており、このことが財政的に厳しい自治体の政

策を鈍らせている要因ではないかと考えているところです。

町では、建築物の耐震改修の促進に関する法律に基づきまして、平成21年12月補正予算で「町耐震改修促進計画作成業務委託料」を確保し、繰越事業をして平成22年度で同計画を策定することで、作業を進めてきました。

この計画は「青森県耐震改修促進計画」が策定されたことを受けて、「階上町耐震改修促進計画」とそれに付随する「階上町地震ハザードマップ」をつくるというものです。

この計画の主なる内容は、大きく2つの目的があります。1つ目は、耐震診断により自己所有の家屋等の危険度を認識すること。

2つ目は、耐震診断により危険と判断された建築物の耐震改修へ誘導することです。本町の計画では、国の方針

や県の計画に準拠し改修目標を定めており、その目的を達成するために、耐震診断や耐震改修が行い易い環境の整備や負担軽減のための制度の構築等に努めることとしています。

耐震診断の結果、改修の必要な建築物がどの程度になるのか、その予算規模や件数など未知の部分がある中で、今後具体的な補助金の額や支援の内容を精査し制度を立ち上げて、計画書の内容に則って初期の目的達成のため町民への周知を図りながら制度の利用を呼びかけていきます。

新年度において作成いたしました耐震改修促進計画とハザードマップ等を基に、これを周知しながら町民の意見要望

等を取り入れ、診断と改修をセットで考えていくべきものと認識しています。

ですから、この診断をすることによって、その先まで改修していくという認識を持っていただけのように誘導していくことも必要かと思っておりますので、この2点を新年度は町民に周知し、要望等を集約して、更に進んでいきたいと考えています。



住宅市街地撮影

Q 平成19年9月定例会に、木造住宅耐震診断事業補助金制度の取組みについて一般質問していますが、『平成23年2月7日、デリー東北の住宅耐震化対応遅れる青森県』と報道されました。大規模地震にたびたび見舞われている青森県でも、耐震改修の補助を受けられる市町村が全くないのは青森と沖縄の2県です。

国は、診断・改修の2段階の費用を国、県、市町村が補助する制度を設ける。この制度を活用するかどうかは都道府県や市町村次第で、岩手県は全市町村で改修までの補助を受けられる。

この制度は、新潟県中越沖地震の時に老朽化した住宅の倒壊により多くの犠牲者が出たことを受け、耐震化を即するため国土交通省が昭和56年5月31日前に着工した木造住



山田 恵治 議員

蒼前地区公園・防風林を有効活用

町長／潤いのある町づくりをしていきたい

Q 蒼前地区には、町が所有する公園や防風林があります。蒼前西1丁目、3丁目、5丁目と地区の南側を囲むように帯状に点在しています。

地区住宅内には、幅16m、17m、距離約400m、南側には1kmを超える距離の町有地があります。この土地は、階上町の大変有効な財産であり、蒼前地区の財産です。

この町有地を、町の顔になるような、階上町の玄関にふさわしい場所として活用したいと思います。

この地区に住む人々が、幸せを感じられるような、そして階上町民が、こんな場所があつて良かったと感じられるような、地域にしていきたいと思います。

蒼前行政区の「地区まちづくり計画書」の中で、この防風林は道路整備計画に上がっ

ている場所でもあり、道路のみならず、健康づくりのための場所として利用したいと考えています。

今の日本は、確実に超高齢化社会へと突入しています。

階上町も例外ではなく、そのことよつて、毎年医療費は増加し、国保税は上昇、町税からの負担は増加し続けています。

この医療費の増加を抑えるためには、町民が健康で元気なためには、階上町全体が健康づくりに取り組んでいかなければなりません。健康づくりは、日常の運動が大切だと言われています。

高血圧や高血脂症、糖尿病など生活習慣病の原因の中に、内臓の周りに脂肪が蓄積した内臓脂肪型肥満が多いといわれます。このような、生活習慣病・狭心症・心筋梗塞・脳

卒中などのリスクがたかくなつた状態をメタボリックシンドロームといいます。厚生労働省によると国民健康栄養調査からウォーキングは特にメタボリックシンドロームの改善に期待できると報告されています。

蒼前地区にある公園や防風林を、ウォーキングコースやジョギングコース、あるいは自転車コースを備えた健康づくりの場所として活用していければと思います。

この町有財産を、町は今後のように有効活用していくのか。

A 町長 蒼前地区には、いくつかが町有地の防風

林、あるいは公園があります。が、昨年伐採したところの防風林を活用した町づくりにつきましては、道路や排水路を計画的に整備したいと思っています。

町民が健康で元気に暮らすことができ、健康づくりの場所としての活用ですが、総合振興計画では潤いのある町の環境を保つ空間や、スポーツ・レクリエーション活動等に対応するため、地域の特性を活かした公園の活用を推進することとしています。

これによつて蒼前地区には、防風林を活用したコミュニティ公園を整備し、地域の方々の憩いの場・安らぎの場として利用されています。

特に、蒼前地区を含めた石鉢地区の人口は、5千人を超える住宅世帯となつておりますので、健康づくりの場として町民が健やかな生活を送れるような、そして自然と共生できるような空間の整備の必要性は非常に高いものと考えております。

また、蒼前地区と八戸市の境界の八戸工業大学に貸付け



工業大学付近

ている土地がありますが、平成23年度中に返還されることになっていきますので、地域と関係者の意見を参考にしながら、新たな土地利用を検討していきたい。

町づくりもそうですが、健康づくりも「一日にして成らず」だと思います。

日常的な健康増進のため活動できる、そして潤いのある生活を送れるように、アイデアと工夫を凝らし、関係者の皆さんのご意見をいただきながら、今後取り組んでいきたいと思っています。



大江和夫 議員

給食資材の地場産品購入について

町長／地場産品の購入に努める

Q 給食資材導入については、多方面にわたり資材の購入をしているようですが、あり方として加工品は別としても、農産物及び果物類は優良品を調達しているが、姿形にとらわれず地場産品を

最大限活用できないか。県の方では、地産地消ということを推進していますが、当町の給食センターでは、どのような考えですか。次に、生徒達の給食費の件です。国の政策で昨年より始まった子

ども手当ですが、場合によつては新年度から無くなるのではないかと危惧しています。

A 町長 平成22年5月新たな給食センターが完成し、より安全な給食を提供できる環境ができました。給食資材の導入マニュアルとして定められたものは特に当町にはありませんが、学校給食は、学校給食法によつて文部科学省が定める学校給食実施基準、また学校給食衛生管理基準等の法令に則つて運営するように定められています。

その中で、児童及び生徒の心身の健全な発達に資すること、これを目的に食材購入は信頼のおける事業者から品質・鮮度の良い食材を選んで購入することとあります。

当町の給食センターでも登録された納入業者から見積りによつて、品質・鮮度の良い

ものを安価に購入できるように努めています。

給食費を行政で負担できるものなのかどうかということですが、学校給食法によつて給食の実施に必要な施設に要する経費並びに、運営上必要な人件費は行政負担とされ、そしてそれ以外の経費については保護者負担と定められています。こういったことから、現在、給食費は全額食材費として原材料に充当しています。

当町の給食は、保護者にも大変美味しいと好評で、現在の献立調理水準を維持していきたいということですが、

当町では平成18年12月から全量階上産米として、平成22年度から週3回の米飯を4回に増やして、地場産品の使用に努めています。そして、その他の食材についても、種類や時期にもよりますが原則、地場産品・県内産品・国内産品・その他の順に指定しています。

そこで、この2時間という限られた時間の中で、1500食を調理しなければなら

いという制約があります。

機械調理に可能な規格品と、いうのも重要な条件となり、現在は鮮度と合わせて良質な物を、地元の産地施設を含めた登録業者の中から、見積りを徴収して安価で購入しているところですが、

なお、規格・鮮度共に食材を購入するにあたりましては、大事なことであり、学校給食法の主旨に則つて、良質な安全なものを購入するように努めています。

また、任意の生産者の組織の方が、ある程度の量を、そして1500食を2時間という制約の中で調理できるように形で搬入できれば、それも可能だと思っています。

今後とも、安全で安心な給食を提供することを第一として、児童及び生徒の心身の健全な発達に資することを目的に、給食センターを運営していきたいと思えます。



道の駅

このようにすることを考えますと、日本の経済が安定しない、また雇用が伸びない中で家庭の負担ばかりが増えてしまうというアンバランス的な状況

東日本大震災

平成23年3月11日、地震の規模を示すマグニチュード(M)は9.0で国内最大級。階上海岸一帯で、追越・駅前・榊集会所には最大125名が避難する。



平成23年3月13日災害視察 追越地区撮影

被害者の皆様に心からお見舞い申し上げます。
被害後、議員一同による視察の様子です。想像絶する津波の大きさに驚きを隠せません。一瞬にして風景は様変わりです。



平成23年3月13日災害視察 大蛇漁港付近撮影

これまで築いてきた財産を一飲みして跡形もなく持ち去ってしまった。誰も経験したことのない災害であり、被害額は約13億3600万円と想定されます。
今後は、一日も早い復興を目指し、行政・議会・町民が一体となって、元々の美しい階上町の姿に戻すよう皆様と一緒に努力していきたいと思えます。



平成23年3月13日災害視察 大蛇地区撮影

編集後記

昨年の広報はしかみ6月号から始まった議会だよりも、今号から単独発行になりました。皆様に親しまれる「議会だより」作りを心がけて参りますので、よろしくお願いたします。

議会を傍聴しませんか

次回の定例会は9月上旬予定です

議会の傍聴は、受付簿に住所、氏名を記入するだけで、どなたでも傍聴できます。一度傍聴されてみてはいかがでしょうか。

発行/階上町議会
編集/階上町議会事務局

〒039-1201
☎ 0178-88-2369(直通)

青森県三戸郡階上町大字道仏字天当平1-87

年4回発行

FAX 0178-88-2117 URL <http://www.toun.hashikami.ig.jp>